

Ⅱ 子どもの発達と教育内容

本県の教育課題の解決に向けた就学前教育の取組を0～5歳という発達段階に応じて考えるため、平成29年3月に告示された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」を踏まえて、子どもの発達とそれに応じた保育の援助及び各年齢ごとの教育内容を示しました。

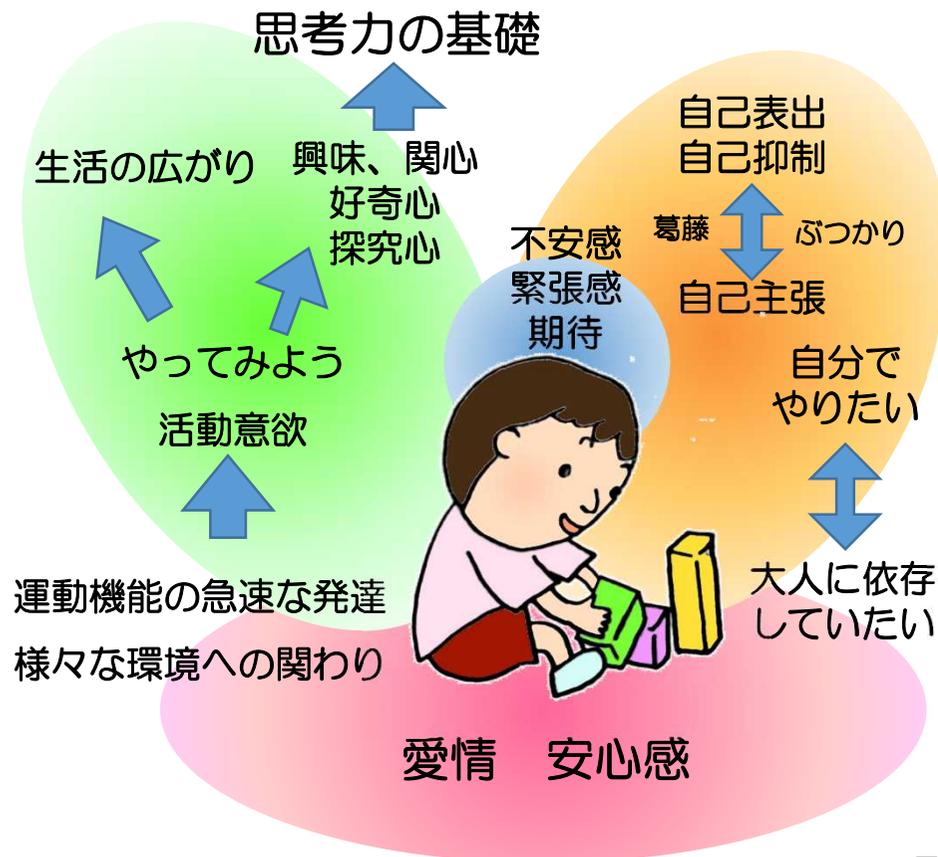
教育を行う際には、子どもの発達を理解し、個に応じた関わりによって発達を促すとともに、発達を見通すことも重要です。子どもが今見せる姿を受け止め、これから育てほしい姿を描く、「幼児理解力」が必要です。また、就学前教育の中で大切にしたいことは、教育を構成する、環境、人やものとの関わり、教育内容、保育者の援助を総合的に考え、展開する「保育構想力」です。

これらの基になる子どもの発達や援助の方法について本章で示し、本県の教育課題解決に向けた具体的実践をⅢ章で紹介します。

子どもの発達と教育内容

子どもの発達

乳幼児期の子どもは、保護者や特定の大人との親しい人間関係を軸にして営まれる生活から、より広い世界に目を向け始めます。そして、生活の場、他者との関係、興味や関心などが広がり、依存から自立に向け成長していきます。子どもの特性に合わせ、子どもにとってふさわしい生活を考えていきましょう。

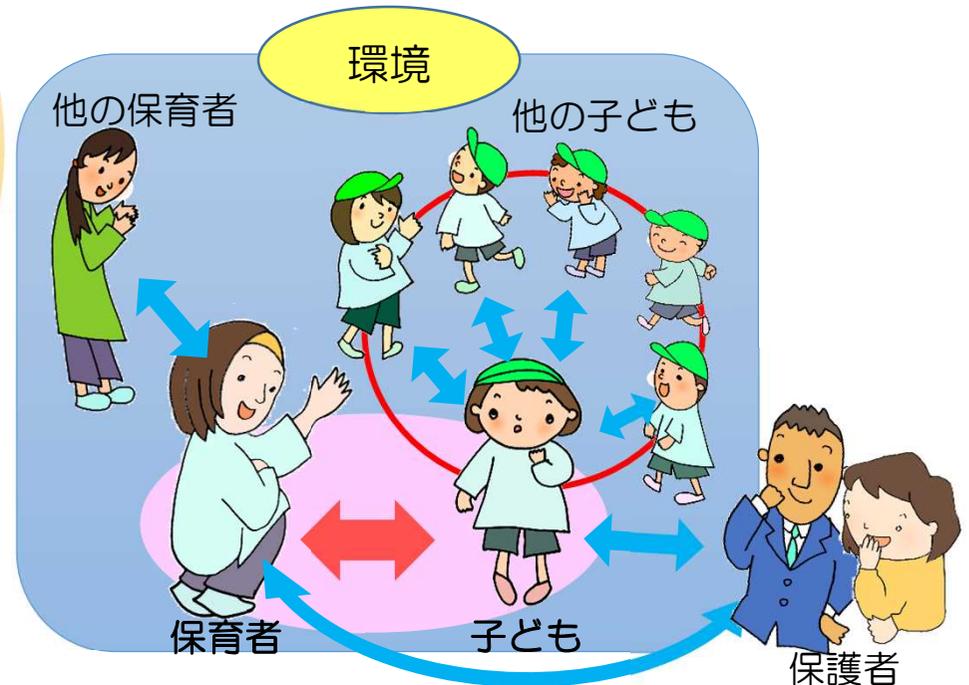


子どもとの関わり

下図は、一人の子どもを中心に、周りで関わる人の相関イメージです。（平成29年度就学前教育研究調査事業京都大学報告のイメージ図から）

子どもの発育・発達は、子ども同士の関わりを主としながら多くの人と関わることで促されます。

本プログラムでは、子どもの活動に対する見守り、援助としての保育者から子どもへの声かけを中心に、環境づくり、子ども同士の関わりや家庭、地域での関わりも含めて、活動の場面に応じて示しています。



教育の「3つの視点」と「5領域」

幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針では、乳児期、1、2歳、3歳以上の3つの発達の段階での教育・保育に関するねらいや内容が示されています。乳児期の子どもには3つの視点が、1歳～3歳及び3歳以上の子どもには5つの領域からねらいが示されており、以下はそれらをまとめたものです。3歳以上は幼稚園教育要領とも同じです。

3つの視点	5領域	
健やかに伸び伸びと育つ	健康	
<ul style="list-style-type: none"> 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする 健康、安全な生活に必要な習慣に気づき、自分でしてみようとする気持ちが育つ 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する
身近な人と気持ちが通じ合う	人間関係	
<ul style="list-style-type: none"> 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる 体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える 	<ul style="list-style-type: none"> 園・所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる 周囲の友達等への興味・関心が高まり、関わりをもとめようとする 園・所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> 園・所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける
身近なものとの関わり感性が育つ	環境	
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする
	言葉	
	<ul style="list-style-type: none"> 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通して身近な人と気持ちを通わせる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育者や友達と心を通わせる
表現		
	<ul style="list-style-type: none"> 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ
0歳	1歳	2歳
3歳	4歳	5歳

子どもの発達に合わせた援助

子どもの発達する姿を通して、子どもに育みたい資質・能力が身に付くためにはどのような援助が大切なのかを示しています。また、家庭と共に発達を支えられるよう、家庭での関わりのポイントを合わせて示しています。

発達の姿

- 首がすわり、手足の動き、座る、はうなどの運動能力や聴覚視覚が発達し、探索行動が活発になる。
- 喃語で自分の欲求を表現する。
- 離乳食が始まる。

- 一人歩きができるようになり、行動範囲が広がる。
- 指先の機能が発達する。
- 友達と同じことをしたり、物を奪い合ったりして他の子どもとの関わりが増える。
- 一語文を話す。
- 自我が育ち、思い通りにならないと癇癪を起こすなどの様子が見られる。
- 想像して見立てて遊ぶようになる。

- 基本的な生活習慣がある程度身に付く。
- 走る・跳ぶなどの基本的な動作が一通りできるようになる。
- 語彙が急激に増加し、「なぜ」「どうして」と盛んに質問する。
- 一人遊びを楽しむ。
- 大人の行動や日常の経験を取り入れ再現して遊ぶ。

0歳

1歳

2歳

3歳

この時期に必要な援助

- 乳児が心地よい生活を送れるように、愛情豊かに行動や、欲求に応える。
- 安全が保障され、安心して過ごせる環境をつくる。

- 子どもの生活のリズムを整えながら、自分でしようとする気持ちを受け止める。
- 温かいまなざしで見守り、支える。
- 子どもの表情や言葉に対して、愛情を込めて応える。

- 基本的な生活習慣など、自分でできた喜びを味わえるようにする。
- 子どもの様子を注意深く観察し、話をしっかりと聞く。
- 子どもがうまく言い表せない時は、思いや感じたことを言語化する。
- 友達と一緒にすることの楽しさや子どもの思いに寄り添い共感する。

家庭での関わりのポイント

大人の笑顔と語りかけに安心感を抱きます。子どもの表情や仕草を、笑顔や言葉で優しく受け止めましょう。

大人の行動をモデルとしながら、自分でしようとする気持ちを育てましょう。

行動範囲を家庭から広げ、地域の環境との関わりの中で、様々な経験ができるようにしましょう。

自分でしようとする気持ちを大切にしながら、食事や排泄の仕方を身に付けられるようにしましょう。

- 基本的な運動能力が育つ。
- 身近な自然環境に興味を示し、積極的に関わる。
- 自分の行動やその結果を予測して不安になるなどの葛藤も経験する。
- 自己を十分に発揮することや、他者と協調して生活することを学び始める。
- 決まりの大切さに気付き、守ろうとするようになる。
- 気の合う友達とイメージを共有しながら想像して遊ぶ。

- 生活に必要な行動を一人で行う。
- 一日の生活の流れを見通すことができる。
- 自ら活発に体を動かして遊ぶ。
- 言葉による伝達や対話する能力が身に付く。
- 友達の考えを取り入れながら、自分なりに考えたり納得のいく理由で物事を判断したりする。
- 集団での活動が高まる。(決まりを守る、役割を果たす)
- 社会生活に必要な力を身に付ける。
- 友達と遊びの中で、共通のイメージをもち、試行錯誤しながら遊びを進める。

- 全身運動がなめらかになり、様々な運動に意欲的に挑戦する。
- 自立心が高まる。
- 自分から様々なことに興味や関心を示し、意欲的に環境に関わる。
- 自分の主張を通すだけでなく、仲間と協調しようとする。
- 思考力や認識力が高まり、自然現象、社会現象、文字、数等への興味や関心が深まる。
- 知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、協同的な遊びを進める。

4歳

5歳

幼児期の終わり

- 子どもが助けを求めてきたときは、いつでも援助できるように見守る。
- 子どもの努力を認め、自信がもてるような言葉かけをする。
- イメージが実現できるような、幅広い材料・素材を準備しておき、必要に応じて提供する。

- 子どもの遊びの過程を認め、自信がもてるようにする。
- 自分たちで進めたり解決したりしている様子を見守り、充実感や満足感がもてるような言葉かけや援助をする。

- 子どもの努力を認め、自信や自覚がもてるような言葉かけをする。
- 集団としての充実感や満足感が味わえるような言葉かけをする。



様々な体験を通して社会性が高まります。子どもの話に耳を傾け、じっくりと聞きましょう。

子どもが夢中になっていることを認め、家族も関心を示し、共有しましょう。

小学校での具体的な生活や様子を知り、親子で就学への期待を膨らませましょう。就学後の安心感と学ぶ意欲につながります。